

## 1 知床国立公園

2 知床国立公園（しれとこくくりつこうえん）は、北海道知床半島にある国立公園。

### 3 概要

4 全国22番目の国立公園として南アルプス国立公園とともに指定された。日本  
5 国内最東北端に位置する知床半島中央部から知床岬までの周辺海域を含む約6  
6 0,000haが公園区域になっている。厳正な保護規制がかけられている「特  
7 別保護地区」が陸域公園面積の半分以上を占めており、公園区域の西端の知西別  
8 岳は、「遠音別岳原生自然環境保全地域」に隣接している。

9 知床国立公園を含む一帯（約71,100ha）は、2005年（平成17年）  
10 に「世界自然遺産」に登録された。

### 11 歴史

12 知床半島には、数千年にさかのぼる先史時代の遺跡が数多く残されている。中  
13 も10世紀前後にオホーツク海沿岸で栄えた北方の漁猟民族によるオホーツク  
14 文化の影響を受けて、アイヌの人々はシマフクロウやヒグマ、シャチなどを神と  
15 崇め、狩猟や漁撈、植物採取などをしながら豊かな自然を大切に文化を育ん  
16 できた。

### 17 自然

18 知床半島はプレート運動や火山活動、海食などの地形形成作用により造られて  
19 いることから、奇岩や海食崖、火山地形などの多様な景観が形成されている。現  
20 在も活動中の火山のうち、知床硫黄山は1936年（昭和11年）に約20万ト  
21 ンの溶融した硫黄を8ヶ月間にわたって噴出している。オホーツク海は地形的・  
22 地理的条件により流水ができる海洋として北半球で最も低緯度に位置する季節  
23 海水域となっている。流水下にはアイスアルジー（海水内や海水の底で増殖する  
24 藻類）が増殖し、流水形成時の鉛直混合により作られる栄養塩の豊富な中層水が  
25 表層に運ばれることで植物プランクトンの大増殖が生じ、それを餌とする動物  
26 プランクトン、高次消費者である魚類や海棲哺乳類（海獣）、陸上の生物にまで  
27 つながる食物連鎖が形成されている。海岸から山頂までの標高差は約1,600  
28 m程であるが、比較的低い標高域から高山帯にあるハイマツの低木林や高山植  
29 物群落が発達するなど、多様な植生が垂直的に分布している。

30 知床半島には手つかずの原生的な自然が残されているため、かつて北海道に広  
31 く生息していた北方及び南方由来の哺乳類、鳥類がほとんどすべて生息して  
32 り、多様性に富んでいる。陸上にはヒグマやエゾシカ、海域には鯨類や鰭脚類と

いった大型動物が高密度で生息していることは、知床半島が哺乳類にとって質の高い生息地となっていることを表しており、特にヒグマは世界有数の高密度状態で維持されている。また、天然記念物に指定されているシマフクロウ、オジロワシやクマゲラの繁殖、オオワシの越冬が確認されており、周辺地域はシマフクロウにとって日本国内で繁殖するつがいの約半数が生息している最も重要な繁殖地であり、オオワシにとっては越冬個体数が1,000羽以上になる世界的に重要な越冬地になっている。河川では、サケ類が著しく優占していることが大きな特徴となっている。

## 知床五湖

知床五湖（しれとこごこ）は、北海道斜里町にある湖（秘湖、沼）である。五湖とあり、一湖から五湖までの名前がついている。ただし、湿地帯にあるため融雪期には数が増える。冬季には遊歩道は通行止めになる。

知床八景の一つに数えられる観光地として、一湖を見下ろす展望台や湖を巡る遊歩道が整備されている。知床連山や原生林を水面に映す素晴らしい風景は、訪れる観光客の心をとらえて放さない。

遊歩道では、エゾリスやエゾシカなどが観察される一方、ヒグマが目撃されることもあり（後述）注意を要する。ヒグマの出没状況によっては、遊歩道の一部または全部が閉鎖される場合がある。また、夜間と冬期は閉鎖される。周辺の植生は、エゾマツやトドマツが主であるが、近年、頭数が激増したシカの食害のため天然更新が滞り、全体的な衰退傾向が危惧されている。

2011年5月10日から遊歩道の入場制限、利用者の事前レクチャーの義務付け、有料化等「利用調整地区制度」が導入されている。

## 歴史

そもそもは無名の沼であったが、1970年代後半から1990年代にかけて、地元の営林署の職員などが積極的な歩道の整備に乗り出したところ、核となる観光地がなかった知床半島の名所として、たちまち脚光を浴びることとなった。

## 利用

### 一湖近くの高架木道

一湖を見渡すことができる高架木道と展望台、及び五湖を巡る遊歩道の2つの散策ルートが整備されている。

高架木道・展望台の往復は約40分、遊歩道で五湖全てを回る場合は約90分、

一湖・二湖だけを回る場合は40分を要する。  
ヒグマが遊歩道周辺に出没した場合には、安全が確認されるまでの期間、遊歩道の一部または全部が閉鎖される。

#### ヒグマの出没と利用制限に向けた検討

知床五湖は、山間部でありヒグマの生息地の中にあるため、遊歩道付近ではヒグマが頻繁に出没する。一方で、観光客が増加するにつれ、遊歩道周辺の踏み荒らしや食べ歩き等自然環境への悪影響や事故の危険性が懸念されるようになった。2004年には、遊歩道に出没したヒグマに観光客がフラッシュを浴びせる事件（襲撃されても不思議ではない行為）が発生した。

前述のとおり、ヒグマが遊歩道周辺に出没した場合には遊歩道が閉鎖されるが、春から夏にかけては閉鎖の頻度が高く、安定した利用ができない状況ともなっており、有識者の中では、遊歩道の閉鎖期間の設定についても意見の相違が表面化しており、自然保護と観光をいかに共存させていくかが問題となっている。

こうした状況を踏まえ、安全で環境負荷の少ない利用を図るため、ヒグマ対策のための電気柵を設けた高架木道・展望台を整備し、観光客は主にそちらを利用してもらうこととする一方で、従来の五湖を巡る遊歩道については、2011年度から入場人数制限、レクチャーの義務づけ、有料化等を導入された。

#### 利用調整地区制度

2011年5月10日より導入された入域制限制度。入域期限はヒグマとの遭遇確率が高くなる5月10日から7月末までの「ヒグマ活動期」と植物育成の保護を名目とした開園から5月9日まで、8月1日から10月20日までの「植生保護期」に実施。ヒグマ活動期は1日最大300人迄としガイドツアー申し込みおよびガイド同行が入域条件。植生保護期は1日3000人までとし、ガイド不要だが大人250円、12歳未満100円の立ち入り使用料を支払う。

#### フレペの滝

フレペの滝（フレペのたき）は、知床半島プユニ岬東の断崖からオホーツク海に流れ落ちる滝。知床八景の一景で、知床国立公園および世界自然遺産「知床」を代表する滝の一つである。落差60メートル、標高80メートル、<sup>せんりゅうばく</sup>潜流瀑。知床連山を源とする地下水の滝で、流入河川を持たないため水量が少なく、高さ約100メートルの断崖の割れ目から染み出した水が涙の雫のように斜面を流れ落ちる様子から「乙女の涙」という愛称で親しまれている。なお、当滝の東隣

97 の崖にある滝は、当滝よりも若干水量が多く男の涙と名付けられている。  
98  
99 **カムイワッカ湯の滝**  
100 カムイワッカ湯の滝（カムイワッカゆのたき）とは、北海道斜里郡斜里町のカム  
101 イワッカ川にかかる滝である。滝自体が温泉となっている。また、最下流にはカ  
102 ムイワッカの滝という「湯」がつかない別の滝が存在する。

## 103 概要

104 標高は400メートル、落差20メートルの<sup>けいりゅうばく</sup>溪流瀑である。知床半島のほぼ中  
105 央にある活火山の硫黄山を源流とするカムイワッカ川に掛かる。  
106 川には温泉が流入し、連続する滝のそれぞれの滝壺が野趣溢れる天然の露天風  
107 呂となっており、野湯とも表現される。カムイワッカはアイヌ語の k a m u y  
108 （神、または神のような崇高な存在の意）、w a k k a （水の意）であり、この  
109 川の温泉成分が強い硫黄成分を含むため有毒であり、生物が生息できない「魔の  
110 水」の意味と解釈されている。  
111 知床八景のひとつとして以前から知られていたが、2005年（平成17年）7  
112 月14日に世界遺産に登録され、訪れる観光客が急増した。一方で、落石の危険  
113 性があることから、厳しい立入規制が行われるようになった。

## 114 カムイワッカの滝

115 カムイワッカ湯の滝の約1km下流に、カムイワッカ川の水が直接、オホーツク  
116 海に落下するカムイワッカの滝がある。落差は約30m。幅広の姿形を持つ。こ  
117 ちらは陸路で近づくことは困難であり、ウトロ港から運航される遊覧船から見  
118 ることができる。標高は40メートル。<sup>ぶんきばく</sup>分岐瀑。  
119 落水が硫黄などを含む強い酸性であるため、河口付近は岩場に藻がほとんど生  
120 えず、化学反応で海水がエメラルドグリーンになっている。秘境の知床を代表す  
121 る滝の1つであり、かつて滝のそばで硫黄を採掘していた小屋跡が現在もその  
122 柱を残している。

### <出典>

本問題は、フリー百科事典『ウィキペディア(Wikipedia)』日本語版 以下の記事より  
CC BY-SA 4.0 ライセンスに基づき一部文章を引用・改変して作成しました。

フレベの滝 最終更新 2023年10月25日(水) 06:38 UTC の版  
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/フレベの滝>)

知床五湖 最終更新 2024年12月15日(日) 07:59 UTC の版  
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/知床五湖>)

知床国立公園 最終更新 2025年1月17日(金) 16:15 UTC の版  
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/知床国立公園>)

カムイワッカ湯の滝 最終更新 2023年10月13日(金) 01:48 UTC の版  
(<https://ja.wikipedia.org/wiki/カムイワッカ湯の滝>)